



一般的なお墓にするか、「樹木葬」や「納骨堂」にするかで迷っています…。

1 最近、「樹木葬」「納骨堂」「永代供養墓」「散骨」など、新しい供養のスタイルがマスコミで取り上げられ、話題となっています。これらは、「一般的なお墓と比べて費用が安い」「お墓の後継者を必要としない」など時代のニーズに合ったものと言えるでしょう。しかし、これらの新しい供養のスタイルはそうしたメリットばかりではありません。なかには、「樹木の墓標に手をあわせても、お参りした気になれない」「散骨したのはいいが、拝む対象がなくなって寂しい」「樹木や植栽のお手入れ・管理がきちんととされていない」といった後悔の声も少なくないのです。お墓は、「遺骨を埋葬する場所」であるだけでなく、残された家族が故人を偲び、先祖を祀るという「お祈りの場所」でもあります。また、お墓があるからこそ、家族や親戚がお墓参りなどで集まるすることができます。つまり、残された人々にとってお墓は、ご先祖様やご家族とのつながりを再確認できる、とても大切な場所なのです。やむを得ず新しい供養のスタイルを選ぶ場合もありますが、「流行だから」などの安易な気持ちで選ぶことは避けたいものです。数多くあるスタイルの中から、ご自分と家族とがよく話し合った上でベストな選択をしていく必要があるでしょう。

樹木葬や納骨堂などの施設は以前と比べて増えてはいるものの、まだ数が少ないのが現状です。ご自宅からの移動距離も踏まえ、よく検討する必要があります。

黒い石は縁起が悪いと聞いたのですが、本当ですか？

2 基本的には石の種類や色による吉凶はないとお考えください。現在、黒系統の石がたくさん出る東北地方では建立されている墓石の65%以上が黒御影石で、地域によっては99%が黒御影石となっています。いま、墓石の多くは海外から輸入されていますが、昔は国内で産出される石材は、黒系や白系の御影石がほとんどでした。従って、このように黒御影石が多く採れた東北地方では多くの墓石が黒系御影石であり、逆に白系御影石が採れた地方では白系御影石が多く建てられたのです。もし、一部の墓相学者の言う通り、黒御影石が「凶」であるならば、東北地方の施主家の多くは不幸だということになってしまいます。また、仏教の基本色は赤青黄白黒の五色であり、この色の一つでも欠けても極楽浄土はできないと阿彌陀經にも記されており、黒御影石がいけないということはありません。

お墓で時々、お地蔵様を見かけますが…。

3 広い墓地を歩いていると、ところどころお墓にまじって、お地蔵様が建てられているのをご覧になったことがあると思います。お地蔵様は水子や幼児などの子供の霊を祀るものです。お地蔵様は正式には「地藏菩薩」という名称で、元々はインド生まれの菩薩です。サンスクリット語では、クシテ・ガルバといい、クシテは「大地」、ガルバは「胎内」、「子宮」の意味で、意識して「地藏」と呼びます。お地蔵様は臨機応変さまざまなものに姿を変えて、人々を救済されると言われています。特にその中でも弱い立場のもの、子供を見守り、無限の大慈悲の心で包み込む「子供の守り神」として古くより「お地蔵さん」として親しまれてきました。お地蔵様を建てるのは、幼児霊、水子の霊をすこやかに成仏させてくれるのが地藏菩薩とされているからなのです。なお、幼児霊とは病気あるいは事故などで幼くしてこの世を去った子供の霊のこと、水子とは流産や死産、あるいは人工妊娠中絶などでこの世に生まれてくることができなかった子供をさします。

お墓は、いつ建てればいいのか？

4 意外に思われる方もいるかもしれませんが、お墓は「いつまでに建てなければいけない」という明確な決まりはありません。ただ、一般的には四十九日や一周忌、三回忌を目安にお墓を建てる方が多く、それが理想的とも言われています。家族や親族が集まりやすい仏日に建立をし、法要、納骨（開眼供養）を同時に済ませれば、何度も足を運ぶ負担を減らすこともできるからです。しかし、ご遺族の中には心の整理がつかない方、経済的状況が整わない方、埋葬場所の制限がある方など、一般的な日程で建てられない方もいらっしゃると思います。ご自身の都合で建立を遅らせることに心苦しさを感じる方もいるかもしれません。でもお墓を建てる時に一番大切なのは、形ではなく心です。ご家族の気持ちやまとった時に建てるのが、亡くなられた方への何よりの供養になるのではないのでしょうか。



お墓のアフターケア

お墓のアフターケアも承っております。お墓の清掃やクリーニング、お墓の引っ越しや墓じまい、お戒名の追加彫刻、納骨のお手伝い、お墓参りの代行まで、お墓のアフターケアもお気軽に相談ください。

① お墓の清掃・クリーニング

離れたところにあるお墓をお住まいの近くに転移するなどの、お墓の引越し(改葬)のお手伝いをいたします。また、古くなったお墓や、跡継ぎがないなどで管理出来なくなったお墓を解体・撤去する墓じまいも承っております。

② お墓の引っ越し(改葬) 墓じまい(お墓の解体・撤去)

納骨式は、きれいなお墓で…。お手頃価格の清掃から、本格的なクリーニングまでお客様のご希望にお応えいたします。汚れた状況にあわせて「高圧ジェット水」や石材専用の「ケミカル洗浄剤」を使用することで、石本来の美しさを取り戻します。



③ お戒名の追加彫刻等(刻字)

亡くなられた方の戒名や俗名、命日などを、墓誌や墓石等へ追加彫刻(刻字)いたします。熟練の職人が、彫刻用の機械を墓所まで運び現地での彫刻を行います。

その他、納骨のお手伝いや、お墓参りの代行などにも対応いたします。お気軽にご相談ください。

おまかせくばやい! 安心のお墓づくり…。

私たちはなぜお墓を建てるのでしょうか…

私たちはなぜお墓を建てるのでしょうか。私たちが亡くなったあとのことを想像してみましょう。残された子や孫たちは毎日元気に暮らしているか、心配事はないかと、いつまでも見守っていたいのが親というものです。そのために、子孫を見守りながら安心して眠る場所がお墓だと考えてはいかがでしょうか。一方で、残された人々にとってお墓とは、喜びや迷いを打ち明け、またなんでもない日常の幸せを手を合わせて報告する場所、つまり、亡くなった人々と生きている人々とがつながり、会話をする場所、それがお墓なのです。いつもお墓参りをし、先祖に手を合わせる親の姿を見てきた子や孫たちは、自然と祖先を敬う気持ちが育まれます。お墓参りは儀式ではなく、代々続く「家族」というものの結びつきの大切さを学ぶことであり、また命がある限り尊いものであることを実感し、日々健康に生きていられることのありがたさを学ぶことなのです。

お墓づくりで一番大切なのは、先祖を敬い、供養する気持ちです。自分たちが亡くなったあと、安心して眠れるような、穏やかで温かい雰囲気を感じさせてくれるお墓、そして供養してくれる残された人々が、お墓参りをしたい気持ちになるような、家族の皆さんにとってしつくり来るようなお墓を建てるのが何よりも大切なことです。

家族への愛・絆・感謝の心、お母さんの好きだった花、そして、優しかったお父さんの思い出など、お墓にこめる想いは様々です。あなたの思いを形にかえるあなただけのお墓づくりを、墓地情報センターはお手伝いいたします。



お墓の意味・役割を学びましょう。

石塔

石塔の起源は、お釈迦様の遺骨を納めた仏塔(ストゥーパ)に由来します。石塔は亡くなられた方が仏様になって安らかに眠る場所であり、現在では魂入れの儀式を行って、ここにご先祖様やご本尊様をお祀りします。これにより、お墓に手をあわせ、ご先祖様やご本尊様へ感謝することができるのです。

墓誌(墓碑)

亡くなられた方の戒名や俗名、没年月日などを刻む石碑のことを墓誌といいます。お戒名を前にして故人の菩提を弔うこと、一族の歴史を振り返り後世に伝えることも、ご先祖様への大切な供養のひとつとなります。

天水受(水鉢)

天水受の「天」とは、極楽浄土を意味します。浄土から降り注ぐ清らかな水を受けて、祀られているご先祖様の喉を潤し、また供養に訪れた人々の心を洗い清めてくれます。

香炉

お香は、良い香りが隅々まで行き渡ることから、すべての人々に行き届く仏様の慈悲に例えられ、「お清め」の役割があるとされています。お線香をお供えることは、心や体のけがれを払い、清浄な気持ちで仏様にお参りをするためののです。

納骨室(別名=カロート)

普段なかなか目にすることの無い納骨室(カロート)には、石塔を支える役割と、内部に棚板を設置して骨つぼを納める役割があります。また、内部には将来的に土に帰る為の「息抜き」と呼ばれる、大地と直結した開口部があります。地域によっては、お骨をつぼに納める袋などに入れて納骨する場合や、三十三回忌に行われる弔いあげの儀式の際に骨つぼをあけて散骨するなど様々です。

外柵(がいさく)

隣接するお墓との境界をはっきりさせる目的もありますが、本来お墓はご本尊様の降臨する聖地であることから、あの世とこの世を分ける「結界」としての意味があります。

灯篭

仏様に灯明を捧げることは最高の供養にあたり、灯明を捧げなくても、灯籠を設置することで、同等の供養になるとされています。また、お参りする人の心を清め、ご先祖様の世界を照らし、邪気を払う意味もあります。

一般的には仏教の教えに沿ったものでなく、根拠のない説も多くあります。不安な時は、何かにすがりたくもありませんが、注意が必要です。

臨機応変に姿を変えて人々を救済されると言われているお地蔵様には、多くの種類があり、また作られた目的もさまざまです。

一般的な納骨の時期は、仏式が四十九日、神式が五十日、キリスト教は葬儀当日や月日などに行われます。



お墓参りを身近なものに…。

5 『散骨は、すべきではない』より
(前略) お墓は単に遺骨を納めるためだけのものではありません。お墓というのは日常生活の中で、折に触れて訪れるべき場所なんです。亡くなった人を偲んだり思い出したりするために行くというのはもちろんですが、自分のために行ってもいいですよ。ご先祖、故人への感謝の気持ちも溢れてくるでしょうし、お願いごとや守護のために行くのでもいい。こんなことがあったよと報告することも出来るでしょう。もちろん報告をしたからと言って墓石が揺れて何か返事があったりするわけではありません。ですが、そこを訪れたことによる安心感、達成感というのは確かに感じられるはずです。散骨をしてしまおうというのは、そのような安心出来る場をなくしてしまうということなんです。(中略)
子は親の背中を見て育つといいますが、親御さんがお仏壇やお墓に手を合わせる習慣を持っていれば、それを見て子供はそういう行為をごく自然に出来る人になるでしょう。散骨をしてしまおうという機会を持たないということになってしまいます。(後略)
…[長澤宏昌氏インタビュー小冊子「散骨は、すべきではない」より引用]



生前にお墓を建ててもいいの？

6 生前にお墓を建てると、死を招くよう縁起が悪いのでは？ と考える方もいますね。でも「寿陵(じゅりょう)墓」といってこの風習、実は昔からあるものです。古くは紀元前3世紀の秦の始皇帝に始まり、日本でも聖徳太子や、近年では昭和天皇も生前にお墓を建てていました。「寿陵」の風習というのは、生前にお墓を建てることで「一度死に、清らかになって新たに生まれ直す」といった考え方があります。これまでの罪が消え、病気が治り、健康で長生きできるという民間信仰のひとつです。また現在ではもっと現実的な目的として、自分の人生の締めくくりを好きな形や、言葉で飾りたいと考える方、残された家族にお墓参りの面倒や金銭的な負担をかけたくないという方などが、「寿陵墓」という選択をしています。お墓には相続税がかからないというのも重要なポイント。現世の幸福のためにも、死後の心配を減らすためにも、いろんな点で「寿陵墓」が注目されているのです。

”お墓の向き”や”墓相”…。気にした方がよいの？

7 「墓相」とは、お墓の形や建て方、向き、石の種類、お墓の環境などによって、家族の家運や人生の吉凶を占うというもので、中国古代からの占術の一つとされています。墓相には様々な説があり、その内容も大きく違ったりする上、仏教との因果関係もありませんので、お墓の方向や形、石質などについては、特に気にする必要はありません。「良いお墓」とは、家族の方々が気持ちよくお参りできることではないでしょうか。お墓の方位や墓相にとらわれるよりも、お盆・お彼岸・御命日にはお参りし、お墓を綺麗に掃除して、ご先祖様を想い、自分たちの生活の歴史を子孫に伝える大切な場所であることを認識することが大切です。どんなに立派なお墓でも荒れていたのではご先祖様の供養にはなりません。ご先祖様に縁のある方々が参りしてくださることこそ大切であり、良いお墓と言えます。

お墓の跡継ぎがないのですが…。

8 少子化の影響もあり、長男・長女同士の結婚や一人娘の結婚などでお墓を継ぐ者がいなくなるケースが増えてきました。結婚した夫婦が複数のお墓を承継する場合もありますが、複数のお墓があると、お墓参りや維持費など、負担が大きくなります。両家のお墓をひとつにまとめること(=両家墓といいます。)で、経済的、精神的な負担を減らすことができるため、「両家墓」を建てられるお客様が増えています。「両家墓」には、一つの区画に二つの墓石を建てる方法と、一つの墓石に両家を祀る方法があります。一つの墓石に両家を祀る場合、石塔や門柱に両家の家名や家紋を入れるのが一般的ですが、最近では、ご先祖様の記録帳とし、墓誌に両家のご先祖様の姓名、俗名だけでなく、出生日や経歴などを一緒に刻んで、子孫に伝えたいと考える方もいらっしゃるようです。

寿陵墓生前墓はここ数年で急激に増えており、地域によってはお墓全体の7割を超えています。その数は、さらに増えていくと見られます。

それでもやはり気になるという方は、墓相家を訪ねる前に、まず一度お寺の御住職にご相談してはいかがでしょうか。

ご夫婦に跡取りがない場合、申込できない霊園もありますが、最近では一定の条件を設けて受け入れしている場所もあります。

INFORMATION

墓地情報センター3つの安心

- 1 施工の安心**
石材の接合部に金具補強を施すなど、様々な技術と工夫により抜群の強度と耐久性、耐震性を備えた施工を標準仕様としております。また、地盤沈下対策やワンランク上の免費施工なども、熟練の技術と豊富な経験を持つ墓石専門の職人がしっかりと対応いたします。
 - 2 品質の安心**
原石の選定から加工の仕上がり、輸送後の不良合など、幾度もの検品作業を実施することで、高品質な製品をお届けします。また、施工技術研修会を定期的に開催し情報の共有と最先端化を図っております。
 - 3 価格の安心**
お見積書には、石種、製品名、作業内容、お引渡日などを詳細に記載し、それぞれの費用も明瞭にしてご提出いたしますので、後々の食い違いや追加費用発生などの心配はご無用です。
- ☐ 短納期のお墓づくり対応致します(納期については、係員までご相談ください。)
 - ☐ 納骨式・供養式のお手伝い無料(当社で埋葬された方には、初回に限り無料でお手伝いします。)
 - ☐ 墓地探しなどお墓に関するご相談無料(公営霊園、寺院墓地、共同墓地などを紹介します。)
 - ☐ お見積り・設計図面提出無料
 - ☐ お墓のリフォーム無料診断
 - ☐ 追加請求はありません
 - ☐ 無料送迎いたします
 - ☐ お戒名の追加刻字



水戸東展示場



☎029-233-4244(代)

〒310-0841 茨城県水戸市西門町2541

渋井町立体交差より国道51号線を大洗方面へ約200m



(注) 記載の商品店内の、計上する工事代金は施工条件の良い場所が基本となっております。(注) 掲載の商品は店舗により大きさや使用石材が異なる場合があります。詳しくは係員にお尋ねください。

ご注意下さい!掲載商品は全てオリジナルデザインです。(注) 掲載するデザイン墓石の転載、転用は固く禁止いたします。また、類似品の販売は悪意の侵害や不正競争行為に該当する場合がありますのでご注意ください。